

I 開会及び閉会の日時

平成 29 年 9 月 28 日 (木)

開会午前 9 時 0 分、閉会午前 9 時 50 分

II 場所

教育委員会室

III 出席委員

1 番 米田 猛

2 番 山崎 弘一

3 番 町野 利道

4 番 村上 美也子

5 番 藤重 佳代子

教育長 渋谷 克人

IV 説明出席者

教育次長 坪池 宏

教育企画課長 五十里 栄

生涯学習・文化財室長 菊池 政則

教職員課長 廣島 伸一

県立学校課長 本江 孝一

小中学校課長 金谷 真

保健体育課長 秀永 倫明

V 傍聴人数 2 人

VI 会議の要旨

午前 9 時 0 分、渋谷教育長が開会を宣する。

1 会議録の承認について

(平成 29 年 8 月 31 日開催の平成 29 年第 9 回富山県教育委員会会議録)

会議録閲覧

渋谷教育長から可否を諮ったところ、全員異議がなく承認した。

2 報告事項

(1) 臨時代理について (平成 29 年 9 月富山県議会に付議する事案に対する意見に関する件)

教育企画課長から説明した。

(2) 臨時代理について (富山県美術館の博物館の変更登録に係る告示に関する件)

生涯学習・文化財室長から説明した。

(3) 平成 30 年度富山県公立学校教員任用候補者名簿登載状況について

教職員課長から説明した。

3 その他

平成 29 年 10 月 3 日付けで任期満了となる米田委員が退任の挨拶をし、渋谷教育長から米田委員へ挨拶をした。

今後の教育委員会等の日程について

教育企画課主幹から説明した。

4 議決事項

午前 9 時 25 分、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 14 条第 7 項ただし書の規定に基づき、議案第 30 号から議案第 34 号については委員全員の同意により会議を非公開とすることを可決し、議事の審議に入った。

議案第 30 号 平成 29 年度教育功労者等表彰の件

議案第 31 号 富山県美術館運営委員会委員任命の件

議案第 32 号 富山県水墨美術館運営委員会委員任命の件

議案第 33 号 平成 29 年度富山県教育委員会表彰 (健康教育実践優良学校) の件

議案第 34 号 富山県スポーツ推進審議会委員の任命に対する意見に関する件

5 議事

○報告事項について

報告事項（1）関係

〔町野委員〕

- ・4 ページの補正予算見込み一覧表の一番上の部分、科学技術教育設備充実費となっていて、県有バス更新費となっているが、項目が合わないような気がする。バスの購入と科学技術教育とどんな関係があるのか。

〔教育企画課長〕

- ・県立学校については実習用のバスということであり、そのような事業名の中で対応させていただいている。

〔教育長〕

- ・例えば農業系の学校なんかは、授業で農場まで移動する必要がある。このバスが科学技術というか、職業教育の中でのものということである。ちょっと綺麗な言葉で書いてある。いずれにしても、バスは県立学校で20台持っている。そのうち6月に大変ご心配をお掛けした滑川高校の炎上事故で、幸い子どもたちに怪我がなかったのだが、それを機に少し年数のいったものを2台更新するというので、表の科学技術教育設備充実費のほうは農業実習等々のものである。その下の特別支援学校設備充実費のほうは特別支援学校のバスである。バスで子どもたちを送り迎えしているため、学校を通じて、なるべく事故が起こらないようにということである。

報告事項（3）関係

〔米田委員〕

- ・補欠者数というのは例年どのくらいか。

〔教職員課長〕

- ・手元にあるのは去年の数字だけだが、去年は補欠32名。今年の22名に相当するものが去年は32名だったが、去年は辞退者が20名いたため、20名繰り上げで合格とさせていただいた。去年は県外、本県に全く縁のない受検者が多かったため、32名と今年より多く補欠としたのだが、その分辞退者は若干多かったというのが去年の傾向。今年はそういうのが少ないので22名とした。

〔村上委員〕

- ・大量退職者数の影響というのは、この後何年間くらい予想されるのか。

〔教職員課長〕

- ・第2次ベビーブームに対応するために1980年代に採用された方たちが、ちょうど退職期を迎えている。ここ10年で約4割が退職する見込み。単純に言うと、50代が4割程度占めているという人員構成になっている。ピーク時、今年単純に定年退職を迎えられる方、概数になるが今年度末は約260だったかと思う。平成32年末が山で、その年に60歳になるという方を見ると400近くおられる。今ほど定年退職者が2百数十と申し上げたが、これに加えて、いわゆる将来の山を見越して、前倒し採用も考えながら300名程度の採用を行っているのが現状である。一方で児童生徒数も減っているの、必要となる教職員数は減るというベースの中で300という数字をとっているというようなことであり、ここ数年は同程度の採用を続けていくことになろうかと思う。

〔村上委員〕

- ・児童生徒は減っていくが、だからといって教職員が減るのはどうかと思う。もう少し手厚くしていけたらいいと感じている。

〔教職員課長〕

- ・国の基準がなかなか変わらない。

〔教育長〕

- ・子どもが減ったから、それに比例して教員を減らすというのが財務省の考えである。文科省の方はそうではなく、だからこそ手厚い教員配置をお願いしますという形であり、それを実現するようにということで県から重要要望として、毎年私自身も行ってお願いしているところであるが、色々な攻防がある。

もう一つ、これは議会でも質問を受けているが、10年間で約4割のベテラン教員が退職するという事
に対し、どういう課題があるのかということだが、ベテラン教員のノウハウを若手にどうやって伝承し
ていくかがとても大切。資料6ページ中段のところに特別選考という表があるが、その上から2番目
のところに教職経験というのがある。特別選考は平成21年度から行っているが、簡単に言うと、本県出
身で他県で現職の教員として活躍していらっしゃる方、機会があるときに富山に戻ってくるのであれば
どうぞという特別枠を設けている。また、指導力に長けたOBの方に来ていただき、若手教員が自主研修
を行うことに対して支援したり、授業展開力の非常に高い現職の先生を授業の達人という形で任命し、
その授業を公開し、そういう形でノウハウを伝承しようとしている。実際4割というと若手ばかりにな
るような形であり、その辺の部分を子どもたちに影響がないように伝承していこうという考え方である。

〔藤重委員〕

- ・特別選考の中の特定資格というのと国際貢献というのはどういったものか。

〔教職員課長〕

- ・具体的にイメージすると英語の能力や看護師とか、そういった特別な資格を持った方が特定資格。一方
で国際貢献の方は、JICAなど、海外で貢献活動されてきた方を対象としている。

〔山崎委員〕

- ・受検者数が気になる。平成30年採用の学生たち、仮に全員が現役だとした場合、平成23年に中3卒だ
ったはずだが、この辺はずっと1万人台を維持していた時期なので、その中で1000を保っているのは健
闘したのではないか。ちなみに2年前、平成28年の大学4年生というと、そこは21年卒なので、この
年は1万人を割った年であり、そのなかで1031である。今後年数が経っていく中で、分母がどんどん減
っていった受検者数も当然減るので、そういう中で1000人維持できるのかできないのかというところは
非常に気になる。

〔教職員課長〕

- ・そういう点はあまり考えてこなかったことはあるのだが、供給源としてはご案内のとおり、大学の教員
養成課程なり、教員免許を取られた方であり、一定の資格を取られた方が今後どうなっていくかとい
うことだと思っているが、教育学部が今後どうなっていくのかという話も色々関係していくのではない
かと思う。私どもとしては、必要数、必要数というのは当然退職者数等に応じて必要数が出てくるわけ
で、いつまでも300名採用するわけではない中で、質の確保という面からは、ある程度の倍率で見ても
必要という思いはある。

〔教育長〕

- ・正直言うと、倍率は全国でも低い方である。ただ、調べたら対人口10万人あたりの採用数で見ると本県
は非常に高い。また、企業の求人数も大変高い。そのバツィングの中でどうやって確保していくかとい
うことであり、大学等も訪問しているが、これからも努力して受検者数を確保していきたいと思う。
問題なのは本県出身の教員資格を持っている方。他県の方は、来ていただいても数年経つと戻っていか
れる傾向がある。元々合格しても入ってこられないこともあるので、その辺のところをどういう手立て
をして確保していくかを考えていこうと思う。

午前9時50分、議事が終了したので教育長が閉会を宣した。